様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科研費
KAKENHI

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　　５ 年　　５ 月 ３０ 日現在

機関番号：３４４４７
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2022
課題番号：１９Ｋ１１４０２

研究課題名（和文）睡眠の質と日中活動量の客観的測定を用いた睡眠導入剤によるうつ/アパシー症状の改善

研究課題名（英文）Effects of Sleep Inducing Drugs on Symptoms in Patients with Dementia.

研究代表者
芦塚　あおい（Ashizuka, Aoi）

大阪河崎リハビリテーション大学・リハビリテーション学部・講師

研究者番号：５０７６１０８７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：認知症患者は高率で睡眠障害を呈しており、睡眠導入剤の服薬率が高いことが知られている。現在広く使用されているオレキシン受容体拮抗薬は、睡眠の改善をもたらすとされている。睡眠の改善が、認知症患者の日中の生活や認知機能にどのように影響を及ぼすかを調べた。認知症の症状、重症度、精神活動、生活動作、認知機能のいずれにおいても睡眠導入剤の服用前後で差は認められなかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
認知症の症状のうち、中核症状に伴う多彩な症状は、BPSD（行動・心理症状）と呼ばれ、臨床上や介護の側面においても問題となっている。家族や介護者はそれら症状の対応に困難を覚え、解決につながる方法が望まれている。
近年、そのような症状のリスク因子としての睡眠が注目されている。認知症患者は睡眠導入剤の服薬率が高いことが知られており、現在広く使用されているオレキシン受容体拮抗薬（スボレキサント）は、睡眠の改善をもたらすとされている。スボレキサント服用前後において、認知症の症状、重症度、精神活動、生活動作、認知機能の変化を調べたが、いずれも差は認められなかった。

研究成果の概要（英文）： It is known that a high percentage of patients with dementia present with sleep disturbances and have a high rate of taking sleep-inducing drugs. Orexin receptor antagonists, which are now widely used, are believed to improve sleep. We investigated how improved sleep affects the daytime life and cognitive function of patients with dementia.
No differences were found in dementia symptoms, severity, mental activity, activities of daily living, or cognitive function before or after taking sleep inducing drugs.

研究分野：リハビリテーション

キーワード：認知症　BPSD

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

認知機能障害に伴う多彩な症状は、BPSD（Behavioral and psychological symptoms of dementia）と呼ばれ、臨床上の問題となっている。BPSDは、患者の身体的要因、環境的要因、心理的要因などの影響を受けて出現する。個人により出現する症状の種類、重症度、頻度が異なる。BPSDは、活動亢進、精神病様症状、感情障害、アパシーの４つの要因からなり、介護者の対応などで変化するため、家族や介護者はそれら症状の対応に困難を覚え、早急な解決が望まれているが、適切な対応方法はいまだ不明確なままである。BPSDのなかでもアパシーは、自発性や意欲の低下、情緒の欠如などの感情面、不活発などの行動面、周囲への興味の欠如などとして現れ、認知症の症状として最も高頻度にみられる。一方、感情障害であるうつは、その症状がアパシーと類似していることから、最も鑑別が困難なBPSDとされている。アパシーとうつの鑑別は認知症に伴う症状として、その対応が全く異なるため、臨床上において重要な課題となっている。高齢者認知症の多くがアルツハイマー病あるいはアルツハイマー病に血管性病変をともなった混合性認知症と診断されており、混合性認知症に多く認められるこれらのアパシーとうつとを区別して、個々の患者に適する対応方法を工夫することが求められているが、日中にみられるBPSDの症状には睡眠の質が影響していると考えられている。認知症患者になんらかの睡眠障害がある割合は7割以上と報告されており、そのほとんどで睡眠導入剤が処方されている。睡眠導入剤として、これまでのベンゾジアゼピン系睡眠導入剤にかわるオレキシン受容体拮抗薬としてのスボレキサントは、認知症患者にも広く使用されるようになっている。スボレキサントは質の良い睡眠を助けるとされているが、このような良質な睡眠パターンがうつやアパシーにどう影響を及ぼすかは明らかにされていない。

２．研究の目的

本研究では、認知症の入院患者について、スボレキサントの投与のある時期と、ない時期について、マット型睡眠計による睡眠の質の計測、アクチグラフによる日中の活動量計測、うつ病スコアとアパシースコアを使用した症状評価を行うことにより、認知症患者に対するオレキシン受容体拮抗剤のうつとアパシーに対する効果、およびそれらがどのように関連しているのかを明らかにすることを目的とする。

３．研究の方法

対象患者は、本学の関連施設である社会福祉法人建仁会特別養護老人ホーム水間ヶ丘および医療法人河崎会水間病院に入所または入院されている65歳以上の認知症患者6名。対象者は、本人および家族の同意を得られる認知症患者で、BPSDの症状を呈し、同時にスボレキサントの服用に該当する者とする。対象者の2週間分のデータを取得する。そのうち、１週間はスボレキサント服用前とし、１週間はスボレキサントの服用後4週間経過後の期間とする。対象者にはスボレキサント服用前後において、神経心理学

的検査を行い、臨床評価を行う。神経心理学的検査は、認知機能検査として ACE-Ⅲを、精神状態評価としてＮ式老年者用精神状態尺度（NM スケール）を、日常生活動作の評価として IADL を実施した。重症度評価には Clinical Dementia Rating(以下 CDR) を実施した。

認知検査 ACE-Ⅲ以外の質問紙評価は、患者の担当看護師 5 名が行い、ACE-Ⅲは代表者が行った。。評価結果は、その相対比を算出し wilcoxson の符号付順位検定を行った。

４．研究成果

NM スケール、IADL、CDR の評価点をスボレキサント服用前後で比較すると、有意差はなかった。また、認知機能検査である ACE-Ⅲにおいても差は認められなかった。

スボレキサント服用の期間、神経心理検査の鋭敏さ、被験者数などの再検討を行い、研究を継続する予定である。

5．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

1．著者名	4．巻
Aoi Ashizuka, Fumie Tazaki	1
2．論文標題	**5．発行年**
The Relevance of Cognitive Dysfunction and Comprehension of Abstract Words.	2020年
3．雑誌名	**6．最初と最後の頁**
Cognition & Rehabilitation	56-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）	**査読の有無**
なし	有
オープンアクセス	**国際共著**
オープンアクセスとしている（また、その予定である）	-

1．著者名	4．巻
Masatoshi Takeda, Kumiko Terayama, Toru Furui, Ken Kamijima, Kazuki Nomura, Mi sa Nakamura, Aoi Ashizuka	1
2．論文標題	**5．発行年**
Cognitive Reserve and Cognitive Rehabilitation.	2020年
3．雑誌名	**6．最初と最後の頁**
Cognition & Rehabilitation	4-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）	**査読の有無**
なし	有
オープンアクセス	**国際共著**
オープンアクセスとしている（また、その予定である）	-

〔学会発表〕　計3件（うち招待講演　0件／うちの国際学会　0件）

1．発表者名
芦塚あおい，小川 慈，西中 和人，池尻 義隆
2．発表標題
ハンチントン病が疑われた1例の高次脳機能障害について
3．学会等名
日本高次脳機能障害学会
4．発表年
2019年

1．発表者名
Aoi Ashizuka, Megumi Ogawa, Kazuto Nishinaka, Yoshitaka Ikejiri
2．発表標題
A Case Report of Neuropsychological Study of Huntington Disease Preceded by Cognitive Impairment.
3．学会等名
International Neuropsychological Society
4．発表年
2020年

１．発表者名 芦塚あおい，宇高不可思，西中和人，池尻義隆
２．発表標題 呂律がまわらない症状から発症した非流暢性進行性失語の1例について
３．学会等名 日本神経心理学会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	武田　雅俊 (Takeda Masatoshi) (00179649)	大阪河崎リハビリテーション大学・リハビリテーション学部・教授 (34447)	
研究分担者	鐘本　英輝 (Kanemoto Hideki) (20838932)	大阪河崎リハビリテーション大学・リハビリテーション学部・客員准教授 (34447)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関